

特別支援学校教員スタート・プログラム(試案)

【セクションI】基礎基本の理解度アップ

## 個別の指導計画



研修動画は  
二次元コードを読み  
又は、説明原稿を参照

1

※ 研修動画は、こちらをブラウザに貼り付けるとアクセスできます。

<http://www.tokucen.hokkaido->

[c.ed.jp/setting/page\\_371/netcommons3/page\\_id1150/](http://www.tokucen.hokkaido-ed.jp/setting/page_371/netcommons3/page_id1150/)研修動画

これから、「個別の指導計画」の研修を始めます。

この研修では、個別の指導計画の目的や、作成、活用の留意点とともに、自校の個別の指導計画の作成・評価等の進め方について理解することをねらいとしています。

前半に説明、後半に演習を行います。

(時間の目安：説明10分、演習20分)

# 1 個別の指導計画とは

子供一人一人の具体的な指導目標や指導内容、方法等を明らかにした計画

## ○ 個別の指導計画の役割

児童生徒個々の個性や能力を最大限に生かし、伸ばすという教育観に立ち、一人一人の「生きる力」を育てるきめ細かい指導の基盤となるもの

## ○ 指導を最適化する

一人一人の障がいの状態や発達の段階等に応じて指導を具体化する「個別化」と、個々の個性を生かす、伸ばすという「個性化」の観点から、個々の指導を最適なものへと充実させていく営み

2

まず、個別の指導計画とは何かを説明して、次のスライドから、作成の根拠や留意する点などについて説明します。

個別の指導計画とは、一人一人の指導目標や指導内容、方法等を明らかにするもので、きめ細かい指導を行うための基盤となるものです。

障がいのある子供は、障がいの状態や発達の段階、特性等が一人一人異なっていて多様であり、障がい名が同じでも、育ってきた環境や発達の段階は一人一人違います。

そのため、実態に即した指導となるよう、指導を評価し、改善を図り続ける必要があります。

一度考えた指導目標や内容、方法は、指導の効果や子供の成長などから、実態に合わないものになっていくことがあります。

個別の指導計画を作成することで、教員自身がそれに気づき、指導を最適化していくことができます。

## 2 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の性格

### 個別の教育支援計画

障害のある幼児児童生徒一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくという考え方の下に、医療、保健、福祉、労働等の関係機関との連携を図りつつ、乳幼児期から学校卒業後までの長期的視点に立って、一貫して的確な教育的支援を行うために、障害のある幼児児童生徒一人一人について作成した支援計画

### 個別の指導計画

幼児児童生徒一人一人の障害の状態等に応じたきめ細かい指導が行えるよう、学校における教育課程や指導計画、当該幼児児童生徒の個別の教育支援計画等を踏まえて、より具体的に幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応して、指導目標や指導内容・方法等を盛り込んだ指導計画

「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」  
中央教育審議会初等中等教育分科会(平成30年) 3

「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の性格の違いについて、整理します。

個別の教育支援計画は、子供の障がいの状態や、障がいに基づく教育的ニーズ、本人・保護者の意見などを基に、どのように指導や支援を行うか、医療や福祉機関などとも連携を図り、卒業後の生活の様子まで見通した長期的視点に立ち、「一貫」して的確な教育的支援を行うために作成するものです。

一方、個別の指導計画は、学校において障がいのある子供に指導や支援を行う際、その時間、どのような目標を掲げ、いつ、どこで、誰が、何を、どのように指導するかを、できるだけ具体的に設定し、指導の結果についても、何がどの程度できるようになったか明らかにするために作成するものであり、二つの計画の性格は異なります。

### 3 個別の指導計画の作成

**各教科等の指導**に当たっては、個々の児童又は生徒の実態を的確に把握し、次の事項に配慮しながら、個別の指導計画を作成すること。

次の事項とは…

- (ア) 児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに学習の進度等を考慮して、**基礎的・基本的な事項に重点を置くこと**。
- (イ) 児童又は生徒が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、それぞれの児童又は生徒に作成した個別の指導計画や学校の実態に応じて、**指導方法や指導体制の工夫改善**に努めること。（後略）

「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」文部科学省（平成29年4月）

4

スライド上段は、個別の指導計画を作成する根拠です。

学習指導要領には、各教科等の指導に当たって、個別の指導計画を作成することと示されています。

一つ、言葉の確認をします。

「各教科等」とは、何のことでしょうか？

「各教科等」は、教育課程によって取り扱うものが異なる場合がありますが、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動及び自立活動のことです。

それら各教科等の指導に当たっては、子供の障がいの状態や発達の段階、学習の進度等を考慮して、基礎的・基本的な事項に重点を置くことや、学習内容を確実に身に付けることができるよう、指導方法や指導体制の工夫改善をすることに配慮しながら、個別の指導計画を作成する必要があります。

## 障がいの状態の重度・重複化、多様化



個別の指導計画は、第1章総則第3節の3の(3)のAを具体化し、障害のある児童生徒一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するものである。

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚園・小学部・中学部）」  
文部科学省（平成30年3月）

5

個別の指導計画は、何のために作成するのでしょうか。

特別支援学校の子供の実態は、障がいの状態が重度・重複化するなど、多様化しています。

始めに説明したように、障がい種や診断名は同じでも、障がいの特性や発達の段階等が個々に異なります。

こうした子供の実態に即して、一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にし、きめ細やかに指導するために、個別の指導計画を作成します。

## 4 個別の指導計画作成の効果

- いつ、どこで、何を、どのように指導したらよいのかが明確になる。
- 複数の教員が共通理解し、指導に当たることができる。
- 指導の評価が具体的になり、保護者と共有することができる。
- 指導に対する保護者の理解と協力が得られる。
- 次年度への指導の引継ぎを行うことができる。

6

個別の指導計画作成することで、このような効果が期待されます。

例えば、取組の見通しが持てるため、系統的な指導につながったり、指導内容や方法、手立てを記載している個別の指導計画を、交流及び共同学習などを行う際の共通理解のツールとして使ったりすることができます。

また、個別の指導計画は、目標が記載されているため、何に向かって学習しているのか、今、どの程度まで取組が進んでいるのか、保護者にも分かりやすく伝えることができます。

更に、個別の指導計画の作成や評価等で、保護者と話し合ったり、経過を報告したりすることにより、学校の取組や指導に対して保護者の理解と協力が得られます。

目標を立て、評価を行うため、個別の指導計画自体が引継ぎに役立つ資料となることなどが考えられます。

## 5 個別の指導計画の作成・活用の留意点①

また、（中略）、教科と自立活動の指導目標や指導内容の設定に至る手続きに違いがあることなどを踏まえると、教師間の共通理解を図り指導の系統性を担保するためには、各学校において個別の指導計画に盛り込むべき事項について整理する必要がある。

### 各教科

児童生徒一人一人の各教科の習得状況の確認などの実態把握が必要

### 自立活動

児童生徒の困難さやよさなどの実態把握に基づき、指導すべき課題を整理し、指導目標を明確にして具体的な指導内容を設定

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）」  
文部科学省（平成30年3月）

7

個別の指導計画の作成に当たっては、児童生徒の実態を把握し、指導目標や指導内容を設定していきますが、各教科と自立活動でその手続きは異なります。

例えば、各教科において作成する個別の指導計画は、児童生徒一人一人の各教科の習得状況の確認などの実態把握が必要です。

また、自立活動は、各教科のようにその全ての内容を取り扱うものではなく、個々の児童生徒の実態に即した指導目標を達成するために必要な項目を選定して取り扱うものであるため、児童生徒の困難さやよさなどの実態把握に基づき、指導すべき課題を整理し、指導目標や指導内容を設定します。

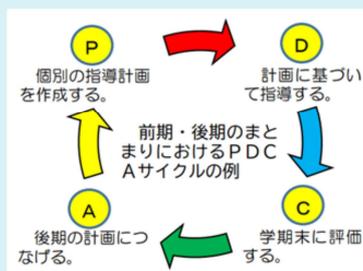
※ 各教科の実態把握については、必要に応じて、「Ⅱ－2 単元の指導計画」を参照してください。

※ 自立活動の実態把握については、同じく、「Ⅰ－3 実態把握」を参照してください。

こうした手続きの違いがあることを踏まえ、各教科において教員間の共通理解を図り指導の系統性を担保するとともに、自立活動においても、個別の指導計画に基づく系統的な指導を展開するために、各学校において、個別の指導計画に盛り込む事項を整理する必要があります。

## 5 個別の指導計画の作成・活用の留意点②

- 卒業するまでに、各教科等の指導を通してどのような資質・能力を目指すのか、各教科の指導内容の発展性を踏まえ、**指導目標を明確にする**。
- 自立活動の指導について、**なぜその指導目標にしたのかな**などを、その設定に至るまでの考え方について、**次の担当者に引き継げるよう工夫する**。
- **計画が適切かどうかは、実際の指導を通して明らかになる**ことから、効果的な指導を行うため、**PDCAサイクルで評価・改善すること**。



「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚園・小学部・中学部）」  
文部科学省（平成30年3月）

「特別支援学級担任のハンドブック（新訂版）北海道立特別支援教育センター（令和4年3月） 8

そのための取組として、個別の指導計画の様式や進め方の工夫などが考えられます。

例えば、各教科等の指導については、子供が卒業するまでにどのような資質・能力の育成を目指すのか、各教科の指導内容の発展性を踏まえ、指導目標を明確にすることができるようにしたり、指導内容を習得し指導目標を達成するために、子供一人一人に対する指導上の配慮事項を付記したりすることが挙げられます。

また、自立活動については、個別の指導計画に基づく系統的な指導を展開するために、個別の指導計画の作成担当者は、なぜその指導目標を設定したのかなど、その設定に至るまでの考え方（指導仮説）について記述し、次の担当者に引き継ぐような工夫が大切です。

後ほど、自校の個別の指導計画を用いた演習を行いますので、その時に、これらのことを踏まえて自校ではどのように工夫しているか、（指導教諭から）説明します。

個別の指導計画は、子供の実態を把握した上で作成されるものですが、子供にとって適切な計画であるかどうかは、実際の指導を通して明らかになるものです。

そのため、より効果的な指導を行うことができるよう、計画（Plan）－実践（Do）－評価（Check）－改善（Action）のサイクルにおいて、適宜評価を行い、指導目標や指導内容、指導方法を改善する必要があります。

## 演習

自校の個別の指導計画を基に、  
次のことについて  
確認しましょう！

- ・個別の指導計画の様式は、どのようになっているか。
- ・作成から評価・改善の年間の流れは、どのようになっているか。
- ・各教科や自立活動の実態把握、指導目標や指導内容の設定は、どのような手続きで行っているか。
- ・指導目標の設定に至るまでの考え方を次の担当者に引き継ぐことができるよう、どのような工夫をしているか。

9

それでは、ここからは演習を行います。

自校の個別の指導計画を準備してください。（ある場合は、個別の指導計画に作成に関わる自校の資料も準備する。）

この演習では、個別の指導計画の様式、作成・評価等の流れ、実態把握から指導目標や指導内容を設定する進め方などについて指導教諭と確認し、理解することをねらいとしています。

個別の指導計画や関わる資料を基に、スライドに示したことなどについて指導教諭が説明したり、質問を受け付けたりして、受講者が個別の指導計画に基づき、子供への指導や支援ができるようにしましょう。

### <演習の進め方の例>

- ① 自校の個別の指導計画についての確認（10分）
  - ・スライドに示した内容を基に、指導教諭から説明する。
- ② 質疑（10分）
  - ・受講者から質問する。

☆ 指導教諭は、受講者が、個別の指導計画について理解して指導や支援を行ったり、作成や評価の参考としたりすることができるよう、説明の中で、各教科等の指導目標や指導内容を明確にするための手続きや効果的な指導を行うための評価・改善などについて、学校において定めていることのほか、自身が工夫していることや大切にしていることを説明する。

（時間経過後）

これで、「個別の指導計画」の研修を終わります。